

令和元年6月26日現在

機関番号：24201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K03195

研究課題名(和文)大都市における疾病発生にともなう健康環境問題への人文地理学的貢献

研究課題名(英文) A Human Geographical Contribution for the Health and Environmental Problem with the Occurrence of Disease in Large Cities

研究代表者

香川 雄一 (KAGAWA, Yuichi)

滋賀県立大学・環境科学部・教授

研究者番号：00401307

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：人文地理学における健康環境をめぐる研究は増えつつあったものの、新しいテーマであるかゆえに課題もあった。まずは研究史における位置づけである。健康環境問題は近代化以降に限っても100年以上にわたって発生しており、人文地理学の研究も同様に歴史を積み重ねている。ただし両者の接点は少ないので、人文地理学における環境思想の受容という観点から結びつけた。さらに、本研究では4つのテーマ(環境思想、居住・呼吸、食・疾病、エスニシティ)に注目し、大都市の健康環境問題における人文地理学的アプローチの有効性を提示し、実証的な知見を踏まえて、人文地理学における健康環境研究の方法論を確立しようとした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

人文地理学において十分に体系化されてこなかった健康環境問題の研究に対して、環境思想が人文地理学に受容されていく過程を地理学の方法論的發展と位置づけることによって健康環境研究の個別テーマを検証し、人文地理学的な研究フレームワークを独創的に確立しようとした。本研究では大都市における健康環境問題において人文地理学的研究が蓄積されてきたことを検証し、質的調査と量的調査の両面から健康環境に関する地域研究を行うことで人文地理学の中で健康/環境地理学を体系化することで、現場の健康環境問題の解決や学際的な関連分野における発展への貢献を試みた。欧米の地理学者による環境史研究とも比較されうる研究成果を目指した。

研究成果の概要(英文)： Although research on health environment in human geography has been increasing, it has been a new theme because it holds research subjects. First of all, it is positioned in the history of research. Health and environmental problems have occurred for over 100 years, even after modernization, and human geography research has a similar history. However, since there are few points of contact between the two, they are linked in terms of acceptance of environmental thought in human geography. Furthermore, this research focuses on four themes (environmental thought, living and breathing, food and disease, ethnicity), presents the effectiveness of the human geography approach in health and environmental problems in large cities. It makes empirical findings based on these themes. We tried to establish the methodology of health environment research in human geography.

研究分野：人文地理学

キーワード：健康環境 環境問題 環境政策 人文地理学 環境史

1. 研究開始当初の背景

地理学において環境を研究することは自明なことと思われてきた。しかし自然環境を主な対象とする自然地理学に対して、人文地理学では方法論の欠如と健康環境への軽視のため、健康環境問題へのアプローチは弱かった。地球環境問題への関心の増加や大都市内部での疾病発生など、地域住民による健康環境意識の高まりにより、健康環境問題への研究の要請は急務である。人文地理学において「環境問題」や「健康環境」の研究は増えており、研究代表者も日本とアジアで健康環境問題の調査に従事してきた。しかしながら、健康環境問題のテーマは多岐にわたるため、人文地理学的方法論はまだ統合できていない。そこで本研究では、健康環境問題を共通テーマとして、新たに人文地理学的方法論を構築することにした。

2. 研究の目的

現代の健康環境問題に対する人文地理学的方法論を独自に体系化することによって、新たな健康/環境地理学を構築する。それにより、健康環境問題が発生している現場への提言という社会的貢献、関連分野（公衆衛生学・地域保健学・環境科学・環境社会学）への学際的貢献、グローバルな研究展開への国際的貢献につなげる。

従来の人文地理学における環境問題の研究蓄積を踏まえて、現代の健康環境問題にかかわる4つのテーマ（環境思想、居住・呼吸、エスニシティ、食・疾病）の地域調査を大都市で実施することによって、人文地理学的方法論を検証し、本研究独自の理論化をめざす。それぞれのテーマの内容と各テーマの統合目的は以下のようになる。

(1) 大都市における疾病問題の発生を通じた人文地理学における環境思想の受容
人文地理学における健康環境研究の嚆矢を19世紀のロンドンとする。世界の工場と言われたイギリスの首都ロンドンでは産業革命以来、重化学工業化や都市の人口密集化によって人々の健康環境が損なわれていた。その中でコレラマップや酸性雨濃度の分布といった地理学的分析が生み出された。以来、アメリカの環境保護運動や日本の公害反対運動において環境思想は人文地理学においても受容されつつ、実証研究が生み出されてきた。こうした研究蓄積を振り返るとともに、現在の健康環境研究に結びつける礎として位置づける。

(2) 居住・呼吸をめぐる大都市内部における健康環境の実態と課題

人間は呼吸をしないと生きていけないが、その基本的な活動も場所や人間の関係性によって危険にさらされていることがある。高度経済成長期の大気汚染は工場周辺や交通量の多い道路の隣接地区における健康環境問題であったが、タバコの副流煙による危険性が認識されるようになってきて、より身近な生活環境においても空気の浄化が課題となっている。また住宅に使われる建材によっては化学物質の問題も生じている。こうした居住や呼吸に関する健康環境の諸問題について、大都市における実態を明らかにして改善策を提示していく。

(3) 大都市のエスニシティをめぐる健康環境の実態と課題

大都市におけるエスニックマイノリティの居住地は健康環境ともかかわっている。都市内部構造の社会地理学的分析によって、エスニックマイノリティは都市内部のセグレーションの中でも居住条件のよくない地域に集住させられてきたことが明らかになっている。健康環境においても大気汚染や水質汚濁といった工業都市に発生している問題が、局地的に悪化している場所に住まわされていることがある。こうした大都市における空間的な問題の実態を明らかにするとともに健康環境への対策の取り組みを現地調査によって解明していく。

(4) 食・疾病をめぐる大都市内部における健康環境の実態と課題

健康を維持するためには食品から栄養素を摂取することで体内に栄養分を補給し続ける必要がある。生物においては普遍的な行動であるこうした活動において、人間社会を眺めると経済状態や年齢、さらには商店へのアクセシビリティによって、不利な条件に陥ることがある。摂取方法によっては過摂取による肥満や不適切な飲料水・食品による疾病の発生など健康環境における諸問題もある。地域的な統計データにより大都市の健康環境の実態を明らかにし、地域特性や住民構成などのデータも加味することによって健康改善の課題を導出する。

(5) 健康環境問題への人文地理学的貢献への展望

健康環境への人文地理学的研究は、健康被害の因果関係やさまざまな人口属性との関係、さらには建造環境や被害予想に至るまで研究は蓄積されつつある。しかし健康被害の発生した地域や都市における人文地理学的研究と結び付けられることは少なく、どちらかといえば環境学や疫学、公衆衛生学などとの関係を深めていった。その反省を踏まえ、人文地理学的方法論を他分野に理解させるとともに、人文地理学の内部においても研究蓄積との関連から健康環境の研究への有効性を検証し、人文地理学における健康/環境地理学を体系化する。

3. 研究の方法

人文地理学における健康環境をめぐる研究は増えつつあるものの、新しいテーマであるがゆえに課題がある。まずは研究史における位置づけである。健康環境問題は近代化以降に限っても100年以上にわたって発生しており、人文地理学の研究も同様に歴史を積み重ねている。ただし両者の接点は少ないので、人文地理学における環境思想の受容という観点から結びつけていく。さらに、本研究では4つのテーマ（環境思想、居住・呼吸、食・疾病、エスニシティ）に注目し、大都市の健康環境問題における人文地理学的方法論の有効性を提示し、実証的な知見を踏まえて、人文地理学における健康環境研究の方法論を確立する。テーマ別の研究方

法は以下ようになる。

(1) 人文地理学における環境思想の受容 (担当: 香川)

人文地理学における環境思想の受容が健康環境問題への関心を高めてきたことを例証していくために、人文地理学による健康環境問題へのアプローチ方法の変遷を検証する。

(2) 居住・呼吸をめぐる大都市の健康環境 (担当: 村田)

生活環境における空気の汚染や居住環境における化学物質による悪影響は注目が集まりつつあるため、こうした新たな大都市での健康環境問題の発生過程を人文地理学的に理解する。

(3) 大都市におけるエスニシティをめぐる健康環境 (担当: 本岡)

エスニックマイノリティの居住地域である大都市における健康環境問題の改善に対して、人文地理学的な研究方法が政策的に支援できることを提示していく。

(4) 食・疾病をめぐる大都市の健康環境 (担当: 埴淵)

健康の維持管理において個人の身体に加え周囲の生活環境は健康への影響を増しつつあるため、大都市の健康環境における問題発生過程を、空間分析を用いて人文地理学的に解明する。

(5) 大都市の健康環境問題への人文地理学的なフレームワークの体系化 (担当: 全員)

都市化・工業化による健康環境問題の発生を最初に経験したロンドンに始まる人文地理学的な研究アプローチを時系列的に確認して、大都市の健康環境問題の人文地理学を体系化する。

4. 研究成果

人文地理学において十分に体系化されてこなかった健康環境問題の研究に対して、環境思想が人文地理学に受容されていく過程を地理学的方法論的發展と位置づけることによって、健康環境研究の個別テーマを検証し、人文地理学的な研究フレームワークを独創的に確立することができた。

都市化あるいは工業化による環境問題の発生は、自然環境だけでなく都市住民をはじめとした人々の健康環境をむしばんできた。本研究では大都市における健康環境問題において人文地理学的研究が蓄積されてきたことを検証し、質的調査と量的調査の両面から健康環境に関する地域研究を行うことで人文地理学の中で健康/環境地理学を体系化した。それにより、人文地理学は「現場の健康環境問題の解決」および「学際的な関連分野における発展」に貢献しようとした。また欧米の地理学者による環境史研究とも比較されうる研究成果を生み出そうとした。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 7 件)

・本岡拓哉 (2016) 「戦後、集団移住へ向けた河川敷居住者の行政交渉 - 広島・太田川放水路沿いの在日朝鮮人集住地区を事例に - 」社会科学 46(1) , pp.197-238

・香川雄一 (2017) 「漁業者の視点からみた持続可能な環境利用 日韓の事例を通して 」地理科学 72(3) , pp. 53-63

・本岡拓哉 (2017) 「戦後都市、「不法占拠/居住」をめぐる空間の政治」歴史学研究 963 , pp.127-136

・島津弘・本岡拓哉 (2018) 「立正大学地理学科による埼玉県・荒川における堤外地研究と今後の展開 - 自然 - 社会の動態からみた河川堤外地空間の即応的展開 - 」地球環境研究 20 , pp.19-24

・土屋衛治郎・本岡拓哉 (2018) 「デジタルアーカイブ的手法を用いたフィールドワークにおける「地理的な見方」の記録と利活用」地球環境研究 20 , pp.171-177

・本岡拓哉 (2018) 「戦後都市の河川敷居住の生成・消滅過程：行政対応に注目して」地域研究 58 , pp.44-55

・香川雄一 (2018) 「「自然」の構築と琵琶湖の「自然」」滋賀県立大学環境科学部・環境科学研究科年報 22 , pp.10-13

[学会発表](計 9 件)

・平井幸弘・浅野敏久・金科哲・伊藤達也・香川雄一・Funcck Carolin・Nguyen Van Hoang・Hoang Ngoc Minh Chau 「ベトナム・メコンデルタにおけるラムサール湿地の現状と課題」地理科学学会, 2016年6月4日, 広島大学(広島県・東広島市)

・本岡拓哉 「戦後、パタヤ集落の「くらし」を問い直す」立正地理学会 2016年度研究発表大会, 2016年6月4日, 立正大学熊谷キャンパス

・村田陽平 「誰のための奨学金か? : 日本のタバコ産業による教育戦略」日本禁煙学会, 2016年10月30日, コングレスクエア日本橋

・香川雄一 「漁業者の視点からみた持続可能な環境利用：日韓の事例を通して」地理科学学会, 2016年11月26日, 広島大学(広島県東広島市)

・本岡拓哉、土屋衛治郎、松尾忠直、中島健太 「「地理的な見方」のデジタルアーカイビング」日本地理学会 2017年春季学術大会, 2017年3月28日, 筑波大学

・本岡拓哉 「戦後都市、「不法占拠/居住」をめぐる空間の政治」2017年度歴史学研究会大会, 2017年5月28日, 学習院大学(東京都・豊島区)

・稲津秀樹、野上恵美、本岡拓哉 「湊川ジャンクション-神戸長田に共在する複数の移住者たちの記憶と記録-」日本移民学会第27回年次大会, 2017年6月25日, 東洋大学白山キャンパス

(東京都・文京区)

・香川雄一、本岡拓哉「英米の大都市における健康環境問題の過去と現在」日本地理学会 2018 年春季学術大会健康地理研究グループ, 2018 年 3 月 23 日, 東京学芸大学(東京都・小金井市)
・本岡拓哉「河川敷居住の生成と消滅をめぐる行政対応: 静岡・安倍川を事例に」立正地理学会 2018 年度研究発表大会, 2018 年 6 月 2 日, 立正大学熊谷キャンパス

[図書](計 2 件)

・藤塚吉浩・高柳長直編、香川雄一、影山穂波、高柳長直、立見淳哉、藤塚吉浩、山本匡毅、吉田道代著(2016)『図説 日本の都市問題』古今書院, 136p.
・本岡拓哉(2019)『「不法」なる空間にいきる 占拠と立ち退きをめぐる戦後都市史』大月書店, 256p.

6. 研究組織

(1)研究代表者

研究代表者氏名: 香川雄一

ローマ字氏名: KAGAWA YUICHI

所属研究機関名: 滋賀県立大学

部局名: 環境科学部

職名: 教授

研究者番号(8桁): 00401307

(2)研究分担者

研究分担者氏名: 村田陽平

ローマ字氏名: MURATA YOHEI

所属研究機関名: 近畿大学

部局名: 文芸学部

職名: 准教授

研究者番号(8桁): 10461021

研究分担者氏名: 本岡拓哉

ローマ字氏名: MOTOOKA TAKUYA

所属研究機関名: 立正大学

部局名: 地球環境科学部

職名: 特任講師

研究者番号(8桁): 60514867

(3)連携研究者

研究分担者氏名: 埴淵知哉

ローマ字氏名: HANIBUCHI TOMOYA

所属研究機関名: 中京大学

部局名: 国際教養学部

職名: 准教授

研究者番号(8桁): 40460589

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。